

YAMAHA

ヤマハチャイム&

打楽器奏者

秋山気清さん菅原淳さん

特別な
魅力をもつ楽器を
心を込めて演奏して

音階をもつ鍵盤打楽器の一種であるチャイム（チューブラーベル）。打楽器奏者で、東京藝術大学の3つ違いの先輩・後輩である秋山気清さんと菅原淳さんに伺ったのは、チャイムにまつわるこんなお話から……。



藝大の先輩・秋山気清さん（左）と後輩・菅原淳さんが対談！

のど自慢では歌った人の気持ちに音を

——今日はチャイムがテーマですが、やはりチャイムと言えば『NHKのど自慢』で21年間鐘を叩き続けた秋山さんですね。一方で菅原さんはあまりチャイムを演奏しているイメージがありませんでした。
菅原●実を言うと、オーケストラでチャイムを演奏したことはほとんどありません。でも今「菅原淳アレンジ・コレクション」と題して、オーケストラの名曲を打楽器アンサンブルに編曲して演奏する演奏会を行っています。チャイムは好きな楽器なので、僕のアレンジではメロディを演奏することも多いです。『カルメン』や『ガイナーヌ〜剣の舞』の細かい音符のメロディなども、チャイムに担当させています。『ボレロ』でもメロディを演奏しますが、間に『NHKのど自慢』の合格のときのメロディが一瞬出てくるんですよ（笑）。
——秋山さんにその部分だけでも

ぜひ演奏してほしいですね（笑）。のど自慢のステージで叩く鐘は、オーケストラで演奏するのとは違いますか。

秋山●まったく違います。オーケストラならその曲に合った鳴らし方があるのですが、のど自慢の場合は歌っている人の気持ちを考えて、「残念だったね」とか「上手だったね」という表現をしていました。菅原●それは面白い。のど自慢は息子と一緒にずっと見ていました。うちの息子は歌ではなく秋山さんの鐘を見るためにテレビの前に座っていて、鐘の音に拍手していたほどです。不合格の鐘2つするとき、1発目と2発目の間隔が人によって微妙に違うんですよ。

秋山●そこに気持ちを込めるんです。「残念！」とか「合格でもよかったのに」とか。たまに僕が決めているのではないかと勘違いする人もいましたが、あれはヘッドフォンで指示が来るので、自分の意思はありません。つらいところですが（笑）。

倍音が整理され
遠鳴りする響きに

——さて、今日のテーマであるヤマハのコンサートチャイムですが、2020年に新型になり、さらに今年の3月に改良が施された最新の楽器となっています。

秋山●実は今日初めて試してみたのですが、昔のものよりも断然叩きやすくなっています。音もよくなりましたね。響きのなかに含まれる余分な音が減ったことで、よ